

1 単元名 「持続可能な町、旭志中校区をつくろう～生徒会活動～」

2 単元の目標

- 旭志の現状を理解したり、笑顔プロジェクトの目的について理解することができる。また学んだり、調べたりして獲得した知識をもとに、それらを関係づけながら企画書を作成することができる。 (知識・技能)
- 旭志の資料をもとに課題を見だし、持続可能なまちづくりのための方策を考えることができる。また、笑顔プロジェクトについて学んだことや考えたことを生かし、芝で何ができるか考え、決定したり発信する方法を考えることができる。 (思考・判断・表現)
- 旭志校区を笑顔にしたいという目的意識を持ち、意欲的に学習活動に関わろうとしている。また、ゲストティーチャーの協力を得て、芝を張り、自分たちにできることを模索しようとしている。最後に旭志中笑顔プロジェクトのことを地域の人に知ってもらえるように発信しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 指導観

本単元では、「持続可能な町、旭志中校区をつくるにはどうしたらよいか」というテーマを与え、課題解決のために何ができるか考えていく。

昨年度から先輩方が行っている笑顔プロジェクトを理解し、さらにはゲストティーチャーの方を招き、芝の張り方やSDGsの視点で話を聞き、その活動への意欲を高めることができる。また、地域の実態を把握したり、これからの活動に具体性を持たせたりすることが期待できる。さらには、人との関りを通して、人とのつながりの心地よさや、関係を深めるコミュニケーションのスキル向上もはかることができる。

また菊池市も同様、熊本地震では多くの方が被災され、車中泊や避難所を余儀なくされた。熊本地震をきっかけに移転した武道場の跡地（なににも使われず放置されていた）を効果的に使う方法を考え、中学生が楽しむだけでなく、芝生を張って保育園児や小学生と遊んだり、マルシェを開いたりすることに加え、ペット同伴の避難所として活用したり、災害情報を伝える手段を整備したいと考えている。様々な活用方法を踏まえて地域の交流の一大拠点にするというよさがあり、この活用法を考えていくことには、大きな良さがあると考えられる。

(2) 生徒観

本校の生徒会は19名で活動している。昨年度の生徒会役員改選の際には、候補者による討論会が行われた。その中で旭志中の魅力や良さをどう発信するかという話題になった。旭志中にはたくさんの魅力があり、中学校に限らず旭志にも多くの魅力があることを生徒は認識した。

また、討論会をきっかけに、「魅力を発信すること」が生徒の達成したい目標の一つになり、そこから、地域との交流の場を創ったり、地域の魅力を発信したりする取組を通して、旭志中を「多くのえがおを生み、守り続ける場所にしたい」という思いが強くなっている。社会的な事象や身の回りの実態などから、課題を見つけ

たり、友だちとの対話を通して考えを練り上げて具体的に実践することができるようになったこの期に本課題を取り上げる意義は大きい。

### (3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず菊池市旭志の人口推移のグラフを提示し、特に高齢者と若者の割合に着目させ、少子高齢化が進んでいること、また過疎指定されたことを課題として取り上げる。旭志中は学校のなかで様々な活動をしているが、この課題は、旭志の課題でもあり、中学校だけでは、解決できない課題であることも明確にさせたい。多くの方とつながって一緒に課題を解決していきたいと考えさせ、意欲を持たせたい。

「えがおプロジェクト」は昨年度の先輩方が立ち上げられた取組であり、そのプロジェクトの目的をきちんと把握する必要がある。先輩方が芝生広場の整備を始め、そのことを知った、宮本さんが協力してくれることになったことを全校生徒に知らせる。ゲスト teacher（宮本さん）を招き、全校生徒で芝を張ることで、全員の思いが詰まったものにつくり上げたい。今後の活動へと、いかしていくために、見通しを持たせ、先輩方の思いを受けたい。実際に何ができるか考え、様々な意見を出させたい。また、いつ、だれが、どのようになど、しっかりした計画を立て企画書を書かせるようにする。どこに人が集まるか生徒に考えさせ、いつまでに周知したり、ポスターを持っていくか考えさせ、取材依頼するための文章を生徒に考えさせる。生徒会に自分たちで企画・運営させ、旭志中だけでなく、地域の方々を巻き込む大きなイベントを開催するといった意識を持たせたい。

さらには、これらの活動を通して、地域づくりに直接貢献できたということ振り返らせ、さらに自分たちにできることはないか話し合わせることを通して、これからの活動にもつなげていくようにする。

### (4) ESD との関連

#### ・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

相互性…現在の旭志中校区の様子は、そのまま未来の旭志中校区の姿であり、自分や身内の者が年老いた時に、安心が担保されていない地域となっている可能性があるということ。

公平性…一人暮らしの高齢者は地域で孤立しがち。これを見過ごせば、恵まれた環境にある人のみが、安心して笑顔で過ごせるまちとなってしまうこと。

連携性…これからのまちは、中学生だけでなく、幼い子どもや高齢者など、地域全体で支え合っていくことが大切であること。

#### ・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

旭志が過疎指定されたことから、これからの旭志を予測し、ふるさと旭志の一人として、持続的なまちづくり一端をいかに担うか計画する。

コミュニケーションを行う力

地域の方が笑顔で安心して過ごせる、自分たちにできるまちづくりについて、意見交流を通して、自分の考えをつくりあげる

つながりを尊重する態度

先輩方や地域の方、ゲスト teacher などの関りを通し、様々な人とのつながりが豊かな学びになっていると  
いうことを自覚し、尊重しようとしている。

進んで参加する態度

旭志中校区のために自分にできることはないか考え、意欲的に関りを持とうとしたり、考えをつくろうとし  
たりして、地域社会に貢献しようとする。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代内の公正

自分たちだけでなく、高齢者や幼い子どもなど、同じ時間を過ごす皆が笑顔で安心して過ごせるまちづく  
りが大切

自然環境、生態系の保全を重視する

ゴミとなる、芝の刈りカスを堆肥化し、芝を張ることで生態系の保全、地球温暖化防止につながる。

幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

いつの時代もだれもがふるさとを愛し、よりよい生活を送りたいという願いを持って、「持続可能なまち  
づくり」を追い求めている。

・達成が期待される SDG s

- 1 3 気候変動に具体的な対策を 整地・芝を植える→ 生態系の保全
- 1 5 緑の豊かさを守ろう 芝を植える → 地球温暖化防止
- 4 質の高い教育をみんなに 様々な年代の教育場面への参画
- 8 働きがいも経済成長も 地方の文化振興
- 1 1 住み続けられるまちづくり 都市部と農村部のつながり
- 1 6 平和と公正をすべての人に 全員参加型のイベント企画
- 1 7 パートナーシップで目標を達成しよう いろんな思いを自分たちだけで、とどめてしまうのではなく、積極的に思いを発信し、輪を広げていく

4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①旭志中校区の現状を理解したり、笑顔プロジェクトの良さについて理解している。	①資料をもとに課題を見だし、持続可能なまちづくりのための方策を考えることができる。	①旭志校区を笑顔にしたいという目的意識を持ち、意欲的に学習活動に関わろうとしている。
②学んだり、調べたりして獲得した知識をもとに、それらに関係づけながら企画書をまとめる技能を身に付けている。	②笑顔プロジェクトについて学んだことや考えたことを生かし、芝で何ができるか考え、決定したり発信する方法を考えたりしている。	②ゲスト teacher の協力を得て、芝を張り、自分たちにできることを模索しようとしている。 ③旭志中笑顔プロジェクトのことを地域の人に納得してもらえようように発信しようとしている。

5 単元の指導計画（全14時間）

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<p>1 菊池市旭志の人口推移のグラフをもとに、旭志の課題と今後の活動の見通しをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化 ・過疎地域の指定</li> <li>・中学校だけでは解決できない課題がある</li> <li>・外部との交流が必要</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの方とつながり、協同して課題を解決していきたい。</li> </ul>	<p>菊池市旭志の人口推移のグラフを提示し、特に高齢者と若者の割合に着目させ、課題を明確にする。中学校は学校のなかで様々な活動をしているが、この課題は、旭志の課題でもあり、中学校だけでは、解決できない課題であることも明確にさせる。地域の方もそうでない方も多くの方とつながって一緒に課題を解決していきたいと考えさせるようにする。</p>	<p>イ① (思判表)</p>
<p>2 旭志笑顔プロジェクトについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先輩方の思い ・地域の交流の場を作る</li> <li>・生徒会テーマ「smile」</li> <li>・全校生徒や地域の笑顔</li> <li>・魅力の発信 ・ふるさとへの思い</li> <li>・人とのつながり ・開かれた学校</li> </ul> <p>3 武道場跡地（熊本地震による移転で手つかずのまま放置）で何ができるか考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒へのアンケート</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芝生広場</li> <li>・マルシェ</li> <li>・BBQ</li> <li>・ペット同伴の避難所</li> <li>・ピクニック</li> <li>・イルミネーション</li> </ul> <p>4 ゲスト teacher に芝の話聞き、実際に全校生徒で芝を植える</p> <p>5 活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の一大拠点になりそう</li> <li>・次はいかにここを活用していくかが大事</li> </ul>	<p>「えがおプロジェクト」は昨年度の先輩方が立ち上げられた取組であり、そのプロジェクトの目的をきちんと把握する。</p> <p>○熊本地震をきっかけに移転した武道場の跡地は使われず放置されていました。</p> <p>○そんな現状から、昨年度の生徒会での話合いのなかでここを活用したいという話になったことを理解する。</p> <p>○中学生が楽しむだけではなく、芝生を張って保育園児や小学生と遊んだり、マルシェを開いたりすることに加え、ペット同伴の避難所として活用したり、災害情報を伝える手段を整備したりして、災害の際に使えるようにという思いも含まれているという先輩方の思いを理解させる。</p> <p>○様々な活用方法を踏まえて地域の交流の一大拠点にするという方針になったのが「えがおプロジェクト」であることを全員が認識し活動にあたらせる</p> <p>○先輩方がまず芝生広場の整備を始めた。そのことを知った、宮本さんが協力してくれることになったことを全校生徒が理解する。</p> <p>ゲスト teacher を招き、全校生徒で芝を張ることで、全員の思いが詰まったものに創り上げる。</p> <p>今後の活動へと、連続発展させていかなせるために、今後の見通しを持たせる。</p>	<p>ア① (知・技)</p> <p>イ② (思判表)</p> <p>ウ①② (主体的)</p> <p>ウ①② (主体的)</p>
<p>6 芝を使って、何ができるか考え、決定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒で芝生ランチ</li> <li>・全員参加型のイベント (学習発表会の昼休憩の時に 芝生ランチ、そして屋外ステージ)</li> </ul> <p>7 外部に発信する方法を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園にポスターを持っていく</li> <li>・新聞社や広報に自分たちで取材依頼して見る</li> <li>・近くの施設(人が集まる場所)にポスター設置をしに行く</li> </ul>	<p>○先輩方の思いを受けたいうで、実際に何ができるか考え、様々な意見を出させる。</p> <p>○いつ、だれが、どのようになど、しっかりした計画を立て企画書を書かせる。</p> <p>○どこに人が集まるか生徒に考えさせる</p> <p>○いつまでに周知をしたり、ポスターを持っていくか考えさせる</p> <p>○取材をするための文章を生徒に考えさせる。</p>	<p>イ② (思判表)</p> <p>ア② (知・技)</p> <p>イ② (思判表)</p>
<p>8 屋外ステージ開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誕生日を祝おう・ダンス発表・日本舞踊</li> </ul> <p>9 活動の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園児や地域の方が来られて、たくさんの笑顔が旭志から生まれた。</li> <li>・取材もあり、新聞にものったことで、旭志の取り組みをアピールできた。</li> </ul>	<p>○生徒会に自分たちで企画・運営させる</p> <p>○旭志中だけでなく、地域の方々への意識を持たせる。</p> <p>○今後の活動へと連続発展させ、次年度の生徒会へ引き継ぐ。</p>	<p>ウ③ (主体的)</p>